

**416 脾癌患者におけるCA19-9の測定
—腫瘍マーカー3種との比較検討—**

稻垣祥二, 宮本佳一, 山本英嗣
(ジャパンメディカルコーポレーション)

CA19-9は, Koprowski らにより, 新しい消化器癌関連抗原として見出され, 脾癌の腫瘍マーカーとして有用であることが報告してきた。

今回, 我々は, エルザ・CA19-9TMkit (ミドリ十字) の治験機会を得たので, CEA, フェリチン, エラスターゼ1と同時に測定し, 病院より脾癌及びその疑いのある患者血清を提供して頂き腫瘍マーカーとしての臨床的有用性を比較検討した。対象は脾癌及び疑いのある患者108名で, 各マーカーの陽性率を求めた。

尚, CA19-9のカットオフ値はDelVillano らが設定した37U/mlを用いた。各種腫瘍マーカーの陽性率は, CA19-9 83% (90/108), CEA 44% (48/108), フェリチン 34% (37/108), エラスターゼ1 39% (42/108) となった。脾癌腫瘍マーカーとして, 従来よりエラスターゼ1が報告してきたが, エラスターゼ1は, CA19-9に比し, 脾癌での陽性率が低かった。

脾癌及びその疑いのある患者において各種腫瘍マーカーを比較したが, CA19-9はこれらの中で, 最も陽性率が高く, 脾癌の血清腫瘍マーカーとして診断的価値が非常に高いと言えそうだ。

418 Carbohydrate Antigen CA 19-9 測定キットの基礎的および臨床的検討

鈴木照夫, 国分啓二, 酒井一吉, 五十嵐忠行,
樋口利行, 松田 信, 内田立身, 刈米重夫
(福島医大第一内科)

Carbohydrate Antigen CA 19-9は1979年Koprowski らにより, ヒト大腸癌の培養細胞を用いて作成されたモノクロナール抗体が認識する腫瘍関連抗原で, 新しい腫瘍マーカーとしての臨床的有用性が検討されつつある。今回, 我々はCISで開発されたCA 19-9測定キットの基礎的および臨床的検討をおこなったので報告する。基礎的検討では, standard curve で, 5.5~20(μ /ml)の範囲での曲線の低勾配化と, dilution test でやや直線傾向に乏しい以外は, intraassay, interassay, recovery test においてほぼ満足すべき結果が得られた。対象は消化器癌を中心とする固型癌, 良性胆道系疾患, 白血病を中心とする血液疾患を主に検討した。測定値は脾癌で極めて高い症例が多く, 良性疾患ながらわずかに胆道系疾患にも高値を示すものもみられた。我々は又, CA 19-9とフェリチンの値の比較, および同一症例における, 血清, 胆汁, および尿中のCA 19-9の濃度の比較についても検討した。

417 消化器系疾患における血中CA19-9の測定意義

真坂美智子, 玉腰勝敏, 金井弘一, 吉見輝也
(浜松医大二内)

CA19-9は, 大腸癌細胞を抗原として得られたモノクロナール抗体の糖鎖抗原である。当初より脾癌に対する特異性が高いことが示唆されていたが, 我々は, 良性肝疾患(肝炎, 肝硬変症など)と脾癌, 肝癌, 大腸癌, 胆管癌の消化器系悪性腫瘍を対象として血中CA19-9値を測定し, その有用性について検討した。

58例の健常成人の血中CA19-9値は5.5U/ml以下から16.7U/mlの間に分布していた。37U/ml以上を陽性とした場合, 良性肝疾患の陽性率は, 10.6%と低かった。悪性腫瘍の平均陽性率は32.3%であったが, 脾癌や胆管癌の陽性率は70%と高かった。しかし血中CA19-9値と総ビリルビン値, GOTやGPTとの相関性は認められなかった。

419 血中CA19-9濃度測定の検討と他の腫瘍マーカーとの比較および組み合わせ測定の検討

辻野大二郎, 千田麗子, 近藤義任, 加藤義郎,
関田則昭, 染谷一彦(聖医大三内)
佐々木康人, 金子稟威雄(東邦大放)

Koprowski らにより報告された糖鎖抗原CA19-9は脾癌をはじめとする消化器癌の腫瘍マーカーとして注目されている。われわれはエルザCA19-9キット(ミドリ十字社提供)を使用する機会を得たので, その基礎的および臨床的検討を行った。また同一検体で他の腫瘍マーカーとしてCEA, TPA, AFP, フェリチンを測定し, 有用性の比較と組み合わせ測定による診断能の向上を検討した。

対象は正常対照42例, 各種癌315例, 各種良性疾患211例である。

一連の基礎的検討では希釈試験がやや不良であったが, 臨床的にはほぼ満足すべきものであった。

癌での陽性率は脾癌で74%, 胆道癌で71%が高率であり, 全体で39%であった。良性疾患での偽陽性率は低く, 全体で5%であった。他の腫瘍マーカーとの比較においてもすぐれた腫瘍マーカーと考えられ, それらとの組み合わせ測定により有用性はさらに高まると思われる。